

<b>講義名</b>	オ)企業論（経営学科）			
<b>担当教員</b>	上田 義朗			
<b>開講期・曜日・時限</b>	前期 火曜日 5時限	<b>授業形態</b>	講義	
<b>履修開始年次</b>	2年生	<b>単位数</b>	2	<b>備考</b>

**主題と概要**

現代の代表的な企業形態である株式会社について、その組織・構造・機能を理解・検討します。そのために企業論の中心的な論点である企業統治（コーポレート・ガバナンス）に焦点を当てて講義します。以上のために教科書を輪読し、それについて解説し、討論します。同時に新聞や雑誌の資料を配付し、具体的な事例を分析します。

なお、本講義の方法は新しい方式です。対面講義とオンライン講義を合わせた「ハイブリッド講義」です。対面講義を録画してオンラインで流すのではなく、事前にオンライン講義を流して、それを「予習」として、その解説や質疑応答を対面講義で実施します。

本字は「実学」を「建学の精神」（＝企業と言えは、企業理念）としています。しかし実際の講義が今まで通りでは、新型コロナウイルス感染の前に戻るだけです。「ニューノーマル」な講義に挑戦します。実学の主張は「言うだけ」の知識にすぎません。それを学んだら実行する。これが実学です。このような「ハイブリッド講義」の実践を体験・協力してくれる受講生を歓迎します。

**到達目標**

1. 株式会社の構造や組織について理解・説明できる。
2. 日本のみならず米国・ドイツ・英国・北欧・韓国・中国のコーポレート・ガバナンスの動向と課題が理解・説明できる。
3. ESG投資、SDGsの考え方が理解できる。
4. 今後の日本企業の株式会社の将来像について自分の意見を述べるができる。

**提出課題**

レポートを向かい書いてもらいます。少し長いレポートは提出期限を定めます。短い意見やコメントは「レスポ」で提出してもらいます。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

レポートの内容について講義中に発表してもらって、それについて口頭でコメントを述べたり、相互に議論したりします。このことでレポートに対してフィードバックします。

**評価の基準**

レポート（レスポを含む）と発言回数などを総合的に判断して成績を評価します。これらの配点は未定です。最も優秀な学生が98点程度になるように採点基準を設定します。期末試験の実施は、コロナ感染状況を見て判断します。基本的にリスクを最大に考えて判断する方針です。

**履修にあたっての注意・助言他**

教科書は必ず用意して下さい。昔年も使用しているので、先輩から譲り受けることも可能でしょう。古書の購入も可能かもしれませんが、また、そういうビジネスを起業してもよいかもしれませんが、起業はFacebookで簡単にできるのでしよう。

オンライン講義は予習です。対面講義は復習・補足・対話を重視します。オンライン講義しか受講できない学生は、メールで意見を述べてもらうようにします。

講義中にSNSを積極的に使用して、専門用語や企業について調べて発表してもらいます。

対面講義で出席はとりませんが、発言に加えます。これは社会人になっても同様です。自分から発言しなければ、賛成=意見なし(=存在感なし)とみなされます。今から個性を養い、自分の存在感をアピールする練習しましょう。

<b>教科書</b>	よくわかるコーポレート・ガバナンス、	風間信隆編著	ミネルヴァ書房	2,600円＋税	978-4-623-08399-2

**プリント資料及び参考文献**

適時、プリント資料を配付します。

参考文献  
講義中に指示・紹介します。

**授業計画**

基本的にオンライン講義では、教科書の目次に従って議論します。それに基づいて対面講義では以下のように議論を展開させます。

1. 株式会社とは何か
2. 会社機関・・・株主総会・取締役会・監査役・各種委員会
3. 株式会社と経営者支配・・・所有と経営の分離、所有と支配の分離
4. ステークホルダーと企業経営
5. 日本におけるコーポレートガバナンスの歴史と現状
6. 同上・・・株式会社成立の生成と崩壊
7. 同上・・・企業不祥事
8. コーポレートガバナンスの国際比較・・・米国・英国・ドイツ・北欧
9. コーポレートガバナンスの国際比較・・・韓国と中国
10. 株式会社と資金調達・資本コスト
11. M&A
12. 企業の社会的責任（CSR）と企業倫理
13. 機関投資家の株式投資と行動規制
14. 日本企業の現状と課題
15. 総括

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

予習・・・オンライン講義を聴講する。教科書を読む。講義での質問に答えられるように準備する。回答すると得点になる。90分-

復習・・・対面講義で補足説明を受ける。質問する。教科書とノートの内容を整理する。それについて次回の講義での質問に回答する。それが得点になる。90分-

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

新しい企業の経営システムの模索が始まっています。また世界的にSDGsやESG投資が強調されるようになってきました。またコロナ後の起業・創業・副業が活発です。これらの現代的なニーズに対応できる「企業論」の講義を追求したいと思っています。また、そのためには現象面の紹介ではなく、歴史的な背景や経緯も不可欠です。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

すでに説明したように「ハイブリッド講義」を実施します。しかし、これは理想なので実際には難しい。教員は2回の講義をすることになり、受講生は予習（オンライン講義）を強制される。しかし、理想に向けて挑戦したいと思います。

対面講義で不明な言葉は即座にSNSで意味を調べる。対面講義でゲームなどする学生がいましたが、怒りよりも、かわいさや哀れさを感じます。子どもから大人に早くして下さい。

**実務経験の有無及び活用**

実務経験あり。

1. 株式投資ファンドの組成（岩井コスモ証券、販売終了）
2. 海外進出のコンサルティング（現職：日本ベトナム経済交流センター副理事長）
3. 複数業種の国際的なビジネスマッチング（現職：ネパールHRDICT社顧問、合同会社IET）

・・・研究上の論理的な整合性、実務上の非論理的で柔軟な現実との「乖離」について、その理由や背景についての私の経験と知見は、受講生の指導に活用できる。

**備考**

講義中の発言を高く評価する。

質問は、講義中または前後、さらにメールで対応します。これも得点を与える。  
Yoshiaki\_Ueda@fred.unds.ac.jp